

芦田町の備後燃糸 環境新事業の一社に参画 廃棄資源の再加工担う



けたという。光成社長は「持続可能な社会を目指すプロジェクトに携われることは、大変光栄」と話す。

アップサイクルは、日清紡グループのニッシントリア・岩尾やネスレ日本、凸版印刷、神戸市など一四の企業・団体によって2月に設立された。廃棄される資源や食品残渣のリサイクル率向上を推進する企業連携のプラットフォームを目指すとしている。

活動の第一弾として、廃棄される規格外の紙資源や神戸の六甲山で切り出される間伐材を活用して紙糸とし、新たな製品を生み出すプロジェクト「TSUMUGI」を実施する。原材料となる紙が備後燃糸に送られ、同社の工場で燃糸に加工されるという。

光成社長は「どんな製品を作るのかはまだ聞かされていない」としながらも、「和紙糸のブランドを広めようと取り組んでいる当社にとっても大きな一歩。これを機に、燃糸について知っていただければ」と期待する。

燃糸は複数の糸をねじり合わせて一本の糸とした物。素材が異なる糸を組み合わせることで、高い強度など独特の

燃糸加工業の備後燃糸株（福山市芦田町福田八七二、光成明浩社長）は、写真上は、廃棄される紙資源や間伐材を燃糸にして、衣類など他の商品にリサイクルする事業を手掛ける一般社団法人アップサイクル（大阪市、森原洋代表理事）に参画した。

和紙から作ったオリジナル糸のブランド「備和」を展開してきた同社。その技術力が評価され、参画の呼び掛けを受



機能を生み出す。同社は1927年の創業以来、燃糸加工一筋に事業を展開してきた。

また同社は、3月24日から公開されるオール福山河ケの映画「18歳、つむぎます」の撮影場所の一つにもなった。「プロジェクト参画、映画ロケと慶事が続いた。四年後の創業一〇〇周年へ向けて弾みになれば」と意気込む。（写真下は紙製の燃糸を手にする光成社長）